

課題

小中高一体の「石巻CAN-DOリスト」を活用した「目標と指導と評価の一体化」の実践

具体的な取組と工夫

協力校(4校): 和瀨小学校、河南東中学校、桃生小学校、桃生中学校



- 「石巻CAN-DOリスト」(小3から高3までの4技能5領域の学習到達目標をつなげたリスト)をベースにした指導と評価の計画およびその目標を基にした地域について発信する言語活動の実践(以下、実践例)
- (小)自分が救いたいと思う石巻の生き物が絶滅しないために、その生き物が抱えている問題と、解決するために自分たちができることを考え、話して伝え合う。
 - (中)石巻市に住む外国人が、減災・防災意識を高められるよう、東日本大震災の体験談や当時の写真から得られる情報を通して自分の感じたことや、外国人へのアドバイスを書く。
 - (高)ハワイの言語や文化の歴史について読み、情報を時系列に整理して概要や要点を捉えるとともに、石巻の文化や歴史を継承していくことについて、自分の考えや気持ちを理由や根拠とともに話して伝え合う。

■異校種間の子ども同士の英語での交流

- (小一中)
 - ・子ども達が作成したクイズ動画を共有し合った。また、中学生が作成した教材を小学校の授業で活用した。
 - ・中学校の教員が小学校に出向いて、国際協力についての出前授業を実施した。
- (高一小・中)
 - ・高校生が小・中学校の授業へ参加し、言語活動を通して小中学生と交流した。
 - ・高校生が作成したエシカル消費に関する英語の絵本を小中学校へ寄贈した。
 - ・中学生が作成した社会問題に関する英字新聞に対して、高校生がコメントを記入した。
 - ・高校の教員が中学校の教員と協働で指導案を作成し、中学校でITでの授業を実施した。



高校生が作成した絵本

■ICTを活用した、授業実践等の日常的な共有とその内容についての協議

■公開授業及び外部専門機関と連携した英語指導力向上に係る研修会の実施

講師: 関西外国語大学 教授 直山 木綿子 先生

■小中高連携の事業を行った山梨県の小立小学校、河口湖南中学校、富士河口湖高等学校への視察

成果

- 「石巻CAN-DOリスト」に紐付いた単元の目標を設定して指導と評価を計画することで、全校種において「目標と指導と評価の一体化」を体系的に実践した。また、その取り組みを日常的にオンライン上で共有し合い協議することで、小中高それぞれの校種で段階的に身に付けさせたい力がより明確になった。

- 子ども同士の交流を通して、相手意識のある英語でのやり取りを行うことができた。小中学生にとっては良いロールモデル効果が生まれ、教育関係の進路を希望する高校生などにとっても有益な機会となり、英語学習に対するモチベーションの向上につながった。

課題及び改善案

■課題

- ・子ども同士の交流を単発で終わらず、教科書の内容に関連付けながら連携を行うこと。
- ・「石巻CAN-DOリスト」のさらなる活用(指導・評価・生徒の学習の振り返り等)と、石巻管内外へ波及させること。

■改善案

- ・異校種間の教科書で共通した題材を基にした子ども同士の連携。
- ・「石巻CAN-DOリスト」と、それを基にした地域についての発信する言語活動やパフォーマンステストなどの実践例が一緒になった、誰もが常時閲覧できる新しいリストの作成。